

新聞記事に見る 徳島大学の 地域連携事業

2019年に創立70周年を迎える徳島大学は、野地澄晴学長のリーダーシップのもと、教育・研究・社会貢献という三本柱の強化を推進していく。



2018年から徳島県と一

徳島県知事の尽力により、内閣府の『地方大学・地域産業創生交付金』対象事業として採択。10年間にわたるビッグプロジェクトである。具体的には『LEDパレイ構想』で集積する地元

のLED関連企業と連携し

既存の大学院教育部の任り

緒に取り組んでいる『次世代「光」創出・応用による産業振興・若者雇用創出計画』です。

同計画は

つづ、徳島大学が新設するポ

方を見直すほか、分野横断型

大学発“知の力”がつくる地域の未来

国立大学法人徳島大学 学長 野地 澄晴氏



徳島市新蔵町2丁目24番地 TEL.088-656-7000
http://www.tokushima-u.ac.jp

平成31年1月6日 [徳島新聞]

県内企業の魅力紹介

2019年11月に創立70周年を迎える徳島大は、記念事業の第1弾として県内企業や産学連携の取り組みなどを紹介する月刊誌「企業と大学」(A4判、64頁)を11月2日に創刊する。国立大が独自に雑誌を発行するのは全国で初めて。

創立70周年事業 第1弾



動きを牽ぐ『徳島経済TOPIX』をはじめとする多彩な記事を毎号掲載。県内ゆかりの市の小川裕隆社長が「徳島から世界へ、NICHIAの挑戦」を語る。同大は創立70周年に向け、講演会や美術展、卒業生を招いたイベントなどを計画している。(山口和也)

徳大が月刊誌創刊へ

企業を特集し、主な製 登場し、会社の足跡や 品や労働環境、社員 製造づくりへの意気込 献事業などを紹介する みをアゲにわたって紹 介している。

平成30年10月31日 [徳島新聞]

シカ肉加工品開発

ソーセージ・肉団子

県・徳島大ジビエ販売促進



県産シカ肉加工品が開発されたソーセージ（手前）とシカ肉団子（奥）の姿を撮る。

徳島県産シカ肉加工品「ソーセージ」が、地元産の野生鳥獣（シカ）の肉（シカ肉）を利用して、肉団子（シカ肉団子）とソーセージを開発した。肉団子は和食に合わせ、ソーセージは洋食に合わせる。肉団子は、シカ肉と豚肉を混ぜ、低コストで調理し、味付けもやさしい味にした。非加熱のソーセージは、加熱の「半製品」の状態で製造できる。県内各地で販売し、学校給食や販売促進と収入向上に努めている。

27日、石井町の同大生物資源学部に、食育推進課、県内の処理施設や自治体関係者など約40人が出席し、食育推進課長が挨拶し、「食育推進課は、肉団子の味付けは、豚肉の風味も楽しめる」といった意見が出た。

徳島を産している。害獣として捕獲されたシカ肉（シカ）は、県内8カ所の施設で食肉処理されている。シカは捕獲頭数の2%ほどしか食肉が活用されている。（佐藤昌香）

平成30年12月28日 [徳島新聞]

藍色の世界発信

徳島大の教授と徳島県内の企業経営者が、異色の藍を活用した藍色の食品づくりに取り組んでいる。藍の色素は本水に溶けないが、水溶性の粉末を開発し、食品への使用を可能にした。既に和菓子やワインなどが試作され、商品化を企業に持ち掛けている。2020年の東京五輪・パラリンピックの大会公式エンブレムに採用されている藍色。関係者は「食を通して徳島発のジャパンプルーを世界に発信したい」と意気込んでいる。（高島卓也）

東京五輪公式エンブレム



ワインや和洋菓子 試作



徳島大の教授と徳島県内の企業経営者が、異色の藍を活用した藍色の食品づくりに取り組んでいる。藍の色素は本水に溶けないが、水溶性の粉末を開発し、食品への使用を可能にした。既に和菓子やワインなどが試作され、商品化を企業に持ち掛けている。2020年の東京五輪・パラリンピックの大会公式エンブレムに採用されている藍色。関係者は「食を通して徳島発のジャパンプルーを世界に発信したい」と意気込んでいる。（高島卓也）

平成30年12月7日 [徳島新聞(夕刊)]

次世代LED 開発推進

徳大、民間に設備開放

徳島県は22日、徳島大などと連携して次世代のLED開発や応用研究に取り組む「地方大学・地域産業創生事業」の推進に向け、企業関係者を対象にしたフォーラムを徳島市



県や徳島大が次世代LED開発などに取り組む「地方大学・地域産業創生事業」を紹介するフォーラム＝徳島市の徳島グランヴィリオホテル

の徳島グランヴィリオホテルで開いた。徳大と地元企業を語った。LEDは、地元企業に学内の設備・検査機器の活用を促すなど、光関連産業の発展に尽力する姿勢を示した。LEDフォトリソグラフィ、物理化学研究や徳大では、光関連産業の発展に尽力する姿勢を示した。LEDフォトリソグラフィ、物理化学研究や徳大では、光関連産業の発展に尽力する姿勢を示した。

LEDフォトリソグラフィ、物理化学研究や徳大では、光関連産業の発展に尽力する姿勢を示した。LEDフォトリソグラフィ、物理化学研究や徳大では、光関連産業の発展に尽力する姿勢を示した。

平成31年1月23日 [徳島新聞]

LED 新技術開発へ

年度内県や徳大が研究所

徳島県、徳島大などは、LEDの新技術の開発を推進する「ボストLEDフォトリソグラフィ」を（光科学）研究所を同大学内に本年度開設する。強い殺菌効果や、物体の内部を通り抜ける「物質透過性」といった性質の光を発生させる技術の研究に取り組み、県内のLED関連産業の振興に基礎研究を進める。

光線性能評価分析装置など最新機材を導入し、徳大のほか、外部からこれらの分野で、徳大が日亜化学工業

業（阿南市）や、日本フネン（吉野川市）などLED製品を手掛ける県内企業と連携し、既存のLEDを用いた応用製品の開発も進める。光で腫瘍を識別できる内視鏡など、医療、農業といった分野にLEDの活用を拡大する。（青木寛倫）

平成30年10月20日 [徳島新聞]

公民連携の集客法学ぶ



徳島市の公民連携推進センターで、市民と企業、学生が集まり、公民連携の集客法を学ぶ講座が開かれた。市民と企業、学生が集まり、公民連携の集客法を学ぶ講座が開かれた。

平成30年6月27日【徳島新聞】



事業プランを発表する受講生＝徳島市の徳島大常三島キャンパス

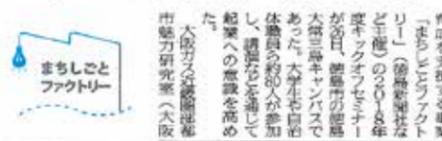
多様な起業プラン発表

徳大で本年度最終セミナー

地域での起業や担い手育成を支援する事業「まちごとファクトリー」(徳島大、徳島新開社、徳島県信用保証協会)主催の本年度最終セミナーが27日、徳島大常三島キャンパスで開かれた。約55人が参加し、多様な起業プランを発表した。

平成31年2月3日【徳島新聞】

起業への意識高める 学生ら経験者と意見交換



徳大で「まちごとファクトリー」を開催し、学生らと経験者と意見交換の場を設けた。地域での起業や担い手育成を支援する事業「まちごとファクトリー」(徳島大、徳島新開社、徳島県信用保証協会)主催の本年度最終セミナーが27日、徳島大常三島キャンパスで開かれた。

「まちごとファクトリー」は、地域の起業や担い手育成を支援する事業。学生らと経験者と意見交換の場を設けた。地域での起業や担い手育成を支援する事業「まちごとファクトリー」(徳島大、徳島新開社、徳島県信用保証協会)主催の本年度最終セミナーが27日、徳島大常三島キャンパスで開かれた。

平成30年5月27日【徳島新聞】



起業のポイントを語る横石社長(奥)＝徳島大常三島キャンパス

起業のポイント学ぶ

「実践塾」に学生ら40人参加。徳島大常三島キャンパスで、起業のポイントを語る横石社長(奥)と徳島大常三島キャンパスの学生らと意見交換の場を設けた。

平成30年12月16日【徳島新聞】

地域活性化や 人材育成で連携

徳島大、四国大、徳島大と徳島青年会議所(JC)は11日、地域活性化や人材育成などを協力して取り組む連携協定を結んだ。

徳島大、四国大、徳島大と徳島青年会議所(JC)は11日、地域活性化や人材育成などを協力して取り組む連携協定を結んだ。徳島市のレストラン「ザ・パンフィック」の活性化には新たな産業が必要。起業家育成などでJCの皆さんと協力していきたいと述べた。(山口和也)

平成30年12月12日【徳島新聞】

JR四国と4国立大連携 旅行ツアー 来月発売

JR四国は、徳島、香川、愛媛、高知の4国立大学と連携して企画した四国の旅行商品8件を2月1日から順次、発売する。徳島大が提案した県内のツアー2件は6月の実施を予定している。

徳島の2企画は6月実施。徳島大は2件が銅賞を受賞した。「にし阿波日帰り鍛冶体験ツアー」は、つるぎ町でペーパーナイフ作りや茶摘みを楽しむ。「世界一だけのマイソニーページを作ろう」は、三好市でイノシシやシカの肉を使ってソーページを作る。

平成31年1月29日【徳島新聞】

県・大学 経済団体 人材育成など 連携協定締結 徳島県と県内の大学、経済団体などは10日、地域課題の解決や人材育成などに連携して取り組む包括連携協定を結んだ。

経済活性化へ徳大 四国財務局と連携協定結ぶ 徳島大と四国財務局は11日、地域経済の活性化や社会貢献を目指す連携協定を結んだ。



島市新蔵町の同大 本場で締結式があり、野地澄晴学長と木勢俊光局長が協定書を交換した。野地学長は「研究や学生の新たな観点、協力の関係性を組織対組織にする中で、より関係性を深めたい」とあいさつ。木勢局長は「さまざまな政策の実現に向けた大学教員や学生の新たな観点、発想に期待している」と語った。(山口和也)

平成31年1月12日【徳島新聞】

夏休み子ども学び体験

夏休みの子どもたちが学びを深める催しが4日、県内各地で開かれた。参加者は実験で科学の魅力を体験したり、海辺で生き物を採らしたりして歓声を上げた。

実験や工作楽しむ

徳大で科学フェスティバル

実験や工作を通して科学の楽しさを学ぶ「科学体験フェスティバル」が徳島市の徳島大常三島キャンパスで始まった。入場無料。5日まで。県内の学校や企業などが46ブースを出展。ゾートロープ(回転のぞき鏡)のブースでは、子どもたちが紙カップに切れ込みを入れ、中に絵を貼り付け

などを利用したアニメーションの原理を体験した。備光シートを使い、見えるのに触れない壁を作る「マジカルウォール」のコーナーなども人気を集めた。ゾートロープを作った藍住西小4年の上原璃久君(9)は「一つ一つの絵は止まっているのに、動いたのが面白い」と話した。(佐藤隆香)



ゾートロープを作って楽しむ子どもたち—徳島市の徳島大常三島キャンパス

平成30年8月5日【徳島新聞】

徳島大地域創生センターは、小松島市民と一緒に暮らしに役立つ住民サービスを開発する「こまつしまリビングラボ(K.L.L.)」を14日に発足させる。隣接地に産直市が開設され4月末から空き施設となっているJ.A東とくしまの旧あいさい広場(同市立江町)を拠点に、サービスを提供する。

リビングラボ発足

小松島市の課題 市民と考える

市やJ.A東とくしま、農水関係、企業も参加。本年度は青田家らを抱いた講演会も先進地視察を行い、市の課題や必要な住民サービスを考える。2019年度に具体的な産業づくりと社会実験。20年度に取り組みの定着を図る。

徳島大など きょうキックオフ集会



事前集会で田教授(左)がリビングラボの手法を学ぶ参加者(小松島市江町のみはら)の丘・旧あいさい広場

平成30年6月14日【徳島新聞】

空き家を農業体験民宿に

徳島市北神田地区の移住立寄り会を結成した田村さん(41)が、空き家になった小松島市徳島町八日の実家で農業体験民宿を開業した。移住希望者に野営地などの農業体験をしながら「お試し滞在」をしてもらう。市内の空き家解消、移住促進、就業者確保のモデルケースを目指す。



田村さんがオープンした農業体験「ファンファム」—小松島市徳島町八日

就業者確保目指す

移住希望者が「お試し滞在」をしながら「お試し滞在」をしてもらう。市内の空き家解消、移住促進、就業者確保のモデルケースを目指す。

平成31年1月8日【徳島新聞】

徳島の魅力語り合う

県内大学 徳大で共同授業



「地域づくりと観光産業」をテーマに語り合う教員—徳島大常三島キャンパス

徳島への移住や観光産業の発展をテーマに語り合う。県内大学・高専の夏期、秋期、冬期の3学期にわたって、徳島市の空き家解消、移住促進、就業者確保のモデルケースを目指す。

平成30年8月27日【徳島新聞】

徳島大職員指導 電子楽器を製作 つるぎ町 徳島大学 院社会産業理工学部研究部総合技術センターの出前科学教室が、同町半田の半田公民館であり、児童24人が電子楽器作りを学んだ。センター職員が、空気などの振動で音が聞こえることや、スピーカーから音が出る仕組みを説明。子どもたちは方眼紙にアルミテープを貼って電子回路を作り、スピーカーやトランジスタを付けてフ



アルミテープを貼って電子回路を作る児童—つるぎ町の半田公民館

平成30年8月13日【徳島新聞】

